

令和6年度関東農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区

ビジネス・イノベーション部門

No.	都道府県	市町村	地区名	取組の概要
1	栃木県	大田原市、那須塩原市、那須郡那須町	那須ナチュラルチーズ研究会 	フランスや北海道から技術者を招聘し研修会を開催。高等専門学校や研究機関と連携し、地域由来の発酵菌や酵母を活用した特色あるチーズ製造に取組。商品数を29から54、売上7,500万円から1億2,500万へアップ。 那須のチーズ工房は3工房から11工房に増加し、雇用増。
2	東京都	新宿区	株式会社テーブルカンパニー 発酵温浴nifu 	間伐材や林地残材の問題解決のため、廃棄した製材所を取得・再生。施業放置林の枝打ちや間伐および林地残材を活用して、発酵温浴資材に再生。吉野産ヒノキの発酵熱を利用した温浴サロンを都市部で9店舗展開。(売上4,287万円→2億8,192万円) 利用価値が見出されない木材部位を、より高く買い取るにより現地林業者の収益増加及び雇用の創出に貢献。

コミュニティ・地産地消部門

No.	都道府県	市町村	地区名	取組の概要
3	群馬県	沼田市	薄根地域ふるさと創生推進協議会 	棚田のオーナー制を実施し、農業体験を通じて都市と交流。 体験・滞在プログラムの開発、沼田産大豆を使用した味噌づくり体験、地元の石窯窯を活用しての陶芸体験、ドローン体験を実施。 地元の小学生を対象に、夏休み期間中の自然観察会を継続実施。 ホテルの餌となるカワニナを養殖し、放流会を実施し、ホテルの復活・棚田の保全活動を地元小学校と実施。
4	栃木県	那須郡那珂川町	小砂village協議会 	棚田オーナークラブをスタートさせ、農業体験を含めた農家民泊に取り組み、首都圏の小中高校生を1,000人を受入れ都市農村交流を取組む。 地域の女性たちの発案により、「お母ちゃんCafé」を立ち上げ、各種イベントで地元産食材を活用した食事を提供。 森林を含めた地区全体を美術館に見立て、地域を周遊するアートプロジェクト「小砂環境芸術祭」を開催。来訪者4,500人から8,000人に増加。 里山と森林を駆け抜ける「小砂トレイルランニング」を開催、首都圏を中心に300名が来訪などにより交流人口の増加に貢献。

個人部門

No.	都道府県	市町村	地区名		取組の概要
5	神奈川県	横浜市	菊子晃平	 <p>農学校の集合写真</p>	<p>耕作放棄地を借りて自然&有機農園に再生を始め、現在12農園までに拡大。</p> <p>6次化産業として、無農薬・無肥料の自然栽培で育てたさつま芋紅はるかを原料として、菊子農園のプライベートブランドの芋焼酎を販売。</p> <p>都市(厚木市)、地方(湯沢市)、海外(ハワイ島)に農学校を同時開校し、都市、農村、海外と交流。神奈川県農業高校生や大学生を湯沢農学校に派遣、厚木校の生徒をハワイ島に農留学、ハワイ島の生徒は、秋田国際教養大学に留学、起業。</p> <p>農業を活性化するためには農業分野での起業が必要と感じ、農業・食・地方創生分野での起業家ビジネスコンテストを自ら実施し農業のビジネス感覚を養う場を提供。</p>